

春夏にんじん産地の維持に向けて

～しみ症に負けない産地づくりの取組～

1 活動のねらい

JA八千代市人参部会の春夏にんじんでは、しみ腐病などのしみ症の多発による収量と品質の低下が問題となっています。そこで、しみ症が発生しにくく、形状や揃いがよい品種を明らかにすること、生育期間中に施用可能なしみ腐病防除薬剤の効果を検証することを目的とした現地試験を実施しました。

2 課題の背景

JA八千代市人参部会（26名）は、「もっと安心農産物」の産地認証を受け、指定品種や統一栽培暦に則って栽培しています。近年、にんじんの根部表面に褐色のしみ症状を呈する「しみ症」の多発により、収量や品質の低下とそれに伴う選別作業の労力負担の増大が問題となっています。しみ症は、しみ腐病や乾腐病、根腐病が主な原因とされていますが、八千代市のにんじん栽培では主にしみ腐病によるしみ症状が問題となっています。しかし、現行の部会指定品種は、しみ腐病に比較的弱いことがわかっており、しみ腐病に強い品種の導入が求められていました。また、しみ腐病の防除薬剤は、は種前又はは種時に施用可能な剤しか統一栽培暦に記載されておらず、栽培中に施用可能な剤が求められていました。

3 普及活動の経過・結果

(1) 品種比較試験

産地面積の約7割で栽培されている「彩誉」（フジイシード）は、2月中旬以降のは種で葉が繁茂して肥大が抑制される点やしみ症の発生が増加する点が問題となっています。そこで、は種適期が2月以降とされる「アロマ809」、「アロマ810」（いずれもトーホク）、「彩極」（フジイシード）の3品種について、主に形状やそろい、しみ症状の発生株率について、慣行品種「彩誉」と比較しました。試験は栽培時期による違いも考慮するため、令和4年2月上旬から3月上旬にかけて、4回行いました（写真1）。



写真1 2月4日は種、6月7日調査の収穫物

試験の結果、「アロマ 810」がしみ症の発生が少なく（表 1）、形状やそろいが良いため、3 品種の中では最も有望と考えられました。この結果を、栽培講習会で部会員と共有し、指定品種の追加について協議しました。今年度はしみ症が多発したため、しみ症に強い品種に対する関心は高く、早期に指定品種に追加すること求める生産者もいましたが、指定品種にするためには複数年の検証が必要であるとして、来年度も引き続き試験を行うこととなりました。

表 1 各品種におけるしみ症発生株率（％）

は種日	収穫調査日	アロマ 809	アロマ 810	彩極	彩誉
2/4	6/7	0.0	2.5	7.5	10.0
2/18	6/17	12.5	5.0	17.5	-
2/24	6/26	25.0	20.0	15.0	27.5
3/3・4	7/5	5.0	2.5	15.0	12.5

注) 病斑からは主にしみ腐病の病原菌であるピシウム属菌が分離された

(2) しみ腐病防除試験

ピシウム属菌により発生するしみ腐病に対して適用のあるアミスター オプティフロアブルについて、トンネル被覆除去後の散布による防除効果を検証しました。今回は、10a 当たり 100L、300L と散布量を変え、無散布区としみ症発生株率を比較しました。その結果、無処理区におけるしみ症発生株率が 45.0%であったのに対し、100L 散布区では 25.0%、300L 散布区では 17.5%であり、散布量が多いほどしみ症発生株率が低下していました。この結果を栽培講習会で部会員と共有した結果、本剤を使用したいという声が多数あり、統一栽培暦へ本剤を追加することとなりました。なお、本剤は有効成分が2カウントであること、使用可能時期が収穫 21 日前までであり、散布時期が限られる点を注意事項として、合わせて情報提供しました。

4 今後の課題

来年度は指定品種の追加に向けて引き続き品種比較試験を行うとともに、しみ症に対して効果が確認されたアミスター オプティフロアブルについて、農業者に散布適期を示すため、散布時期による効果を比較する試験を計画しています。今後は、品種の選定、土作り、排水性の改善、適期収穫といった耕種的防除と、播種前の土壌消毒、は種時・生育期の薬剤散布を上手に組み合わせた総合的な防除対策の実践を進めていきます。

5 担当者 八千代グループ 武田 藍

6 協力機関 八千代市、JA八千代市、
千葉県農林総合研究センター病理昆虫研究室